東京文化発信プロジェクト

TOKYO CULTURE CREATION PROJECT

NEWS LETTER Vo.1

平成 23 年 9 月 8 日
東京文化発信プロジェクト室
（公益財団法人東京都歴史文化財団）

当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

東京の芸術・文化の力が結集する秋！『東京クリエイティブ・ウィーク』大特集

残暑の厳しい毎日が続いておりますが、“芸術の秋”“文化の秋”が間近にせまっています。この秋、東京文化発信プロジェクトでは、10 月 20 日（木）～10 月 30 日（日）の 11 日間を『東京クリエイティブ・ウィーク』とし、子供から大人まで、さらに外国人の方にも楽しんでいただける多彩なプログラムを集中的に展開してまいります。平成 23 年度、第 1 号となる本ニュースレターでは、この『東京クリエイティブ・ウィーク』を特集します。

CLOSE-UP PROGRAM①
スーパーバイザー日比野克彦氏が語る『FUTURE SKETCH BOOK』

未曾有の大災害を経た日本だからこそ世界へ発信できるものとは・・・
3.11 後、アートの力で何ができるのか
スペシャル・プログラム『FUTURE SKETCH BOOK』に込めた想い

今年度のテーマ「TOKYO FUTURE SKETCH～日本の未来のために、文化ができること～」を基に行われる、スペシャル・プログラム『FUTURE SKETCH BOOK』。東京クリエイティブ・ウィーク期間中にも、ワークショップやトークセッションなど参加型プログラムを予定していますが、『FUTURE SKETCH BOOK』のスーパーバイザーであるアーティスト・日比野克彦氏に、東日本大震災後アートが果たす役割や『FUTURE SKETCH BOOK』プログラムの意義について、お話を伺いました。

止まっていた時間をまわすきっかけになりたい

ー今回の震災を受けて、まずアーティストとしてどんなことを感じられたのでしょう？

今回の震災を受け、まず思ったのがアーティストとして支援活動をいつからスタートし、何をすべきかということ。阪神・淡路大震災の時は経験がなく、何をしていいのか分かりませんでしたが、今回は被災地へ入るタイミングと、どれぐらい中期・長期スパンで活動を行っていくかということが、まず念頭にありました。

活動にあたっての目的は大きく 2 つ、1 つ目はアート活動を行うことによって避難されている方々の想

像力を刺激し、自分たちの生活を立て直していくことを応援していくこと、2つ目は自分自身が被災地の人達に対して何もできていないと感じ、罪悪感に心を痛めている人や、被災地・避難所の人々に思いを寄せる人々の気持ちを形にしていくことです。

ー実際に被災地にも入られ、そこでアートや文化の担う力というものは感じられましたか？

初めて被災地に入ったのは4月末でした。モノを作るのが大事だと感じたのは、震災で積み重なってきたその土地の文化が一瞬で津波に飲み込まれて無くなってしまったということを痛切に感じたためです。被災地には家族を亡くし、時間をかけて作り上げてきたものを無くし、呆然とし、無力感を感じ、時間が止まってしまった人々が大勢いました。

モノを作るとき、30分程度の作業であっても30分前にはなかったものが30分後には形になって見えてきます。文化ができること、アートができることというのは、人の想像力を喚起させる、何もないところからモノが生まれる喜びを再認識させることだと思います。震災によって明日のことも明後日のことも考える気力を失くしてしまっていた人の止まっていた時間をまわすきっかけになりたい。

集団の中で思いもよらないものが引き出される、そのために社会がある。

ー特製の大小のスケッチブックに未来の絵を描くワークショップ『FUTURE SKETCH WORKSHOP』がありますが、“SKETCH”という言葉に込められた意味とは？

絵を描くことだけがスケッチだとは思いません。紙に描くスケッチもあるし、思い描くスケッチもある。お百姓さんが田んぼに水を引いて耕していくことも1つのスケッチだと思います。完成したものを思い描く行為そのものがスケッチだと考えています。

今回は、実際に未来の絵を描くわけですが、描くものは、20世紀に思い描いていた未来都市や、空飛ぶ車などの、いわゆる都市計画的なものではありません。ロケットや高層ビルなどの物質的なものは描きやすいですが、今の時代に求められているものはそういったものではないと思います。私たちが考えていく未来は、自然であったり、豊かさとは？という問いであったりと、絵で描くには、非常に描きづらいものだと思います。だからこそ、それを描くことによって確認し合うことはとても必要だと思います。

自分1人で考えること、思い描いていることを、会話の中で刺激し合いながら、自分とは違う意見を見たり聞いたりすることで、引き出されることがあります。集団の中では、思いもよらないものが引き出される、そのために社会があるのだと考えています。『FUTURE SKETCH WORKSHOP』を機に、みなさんと未来の絵を描いていきたいと思っています。

東日本大震災を受け、
東京から世界に向け何を提案するのか？
『FUTURE SKETCH BOOK』はそれを考えるツール

ー街とそこに集う人々のアイデンティティを取り入れた作品展やワークショップを数多く展開してこられた日比野さんが、“東京”を中心に展開する今回のプロジェクトに期待しているものは？

東京だからできることは、世界レベルの最高の技術、最高の人材を最大限に結集させて、一番人間らしい生活とは何かを提案していくこと、それが東京の地域性だと思います。

震災前は未来と言われれば、10年後、100年後はすごい未来という認識でしたが、震災後は100年、1000年後といったスパンでの発想が必要で、decade的（10年）な考えでは測れなくなってきています。10000年に1度レベルの災害が明日にでも起こることを覚悟し

た上で、1日1日を生きていかなければならないと思います。

今回の震災を経て、日本で暮らす人々の意識は大きく変わりましたが、そういう経験を発信できる国だからこそ、1000年に1回の災害を検証し、次の時代にメッセージとして伝え、継承、提案をしていかなければなりません。そのためのリサーチ的な役割も今回の『FUTURE SKETCH BOOK』にはあると思います。『FUTURE SKETCH BOOK』のプログラムを通じて、未来についての議論を交わすことや未来の絵を集めていくことにより、東京として何を提案していくかを考える1つのリサーチのツールとして活用できればと考えています。

日比野克彦
作品制作の他、身体を媒体に表現し、自己の可能性を追求し続けるアーティスト。東京藝術大学教授、日本サッカー協会理事。

■「FUTURE SKETCH BOOK」開催概要

「FUTURE SKETCH WORKSHOP」
開催期間:9月～11月(全11回)
開催場所:アーツ千代田3331を本拠地に、三宅島や宮城県への出張ワークショップも実施
参加アーティスト:日比野克彦、しりあがり寿、八谷和彦、椿昇ほか、著名アーティスト多数参加
内容:一般参加者とアーティストが未来の絵をスケッチするワークショップ。参加者は、特製の小さなスケッチブック「FUTURE SKETCH BOOK MINI」に未来を描き、その絵をもとに未来について議論を交わします。ワークショップの最後には、スーパーバイザーの日比野氏やファシリテーターを務める著名アーティストが特注サイズの大きな「FUTURE SKETCH BOOK」に参加者が描いた未来を1枚の絵として描き上げます。

	日　時	場　所	定員	参加アーティスト
第1回	9月7日(水)19時～22時	アーツ千代田3331 308号室	12名	日比野克彦、田中偉一郎
第2回	9月11日(日)14時～17時	アーツ千代田3331 308号室	12名	しりあがり寿、八谷和彦
第3回	9月20日(火)9時～12時(予定)	三宅島漁業協同組合2階会議室	12名	日比野克彦、近藤良平
第4回	9月21日(水)19時～22時	アーツ千代田3331 308号室	12名	椿昇、ヤノベケンジ
第5回	10月7日(金)15時40分～18時	宮城県気仙沼市立階上小学校	12名	日比野克彦、藤浩志
第6回	10月15日(土)14時～17時	アーツ千代田3331 308号室	12名	辛酸なめ子、えぐちりか
第7回	10月20日(木)13時～16時	アーツ千代田3331 308号室	12名	日比野克彦、西沢立衛
第8回	10月25日(火)19時～22時	アーツ千代田3331 308号室	12名	曽我部昌史、大巻伸嗣

※各回の参加募集および第9回以降の予定は、随時ウェブサイト(URL:www.tokyofuturesketch.jp)にて公開いたします。

東京クリエイティブ・ウィーク特別プログラム「日比野克彦×加藤種男　トークセッション」
東京クリエイティブ・ウィークの初日である10月20日(木)に、特別プログラムとして「日比野克彦×加藤種男トークセッション」と「FUTURE SKETCH WORKSHOP」第7回のワークショップを同時開催します。
開催日:10月20日(木)
開催場所:アーツ千代田3331(予定)
トークセッション:日比野克彦、加藤種男
※同日開催　FUTURE SKETCH WORKSHOP 第7回　日比野克彦、西沢立衛

CLOSE-UP PROGRAM②
『FUTURE SKETCH 東京会議』東京文化発信プロジェクト室 山口真樹子企画担当ディレクター

さまざまな視点で、日本の未来を熱く議論　新たな社会のデザインのために創る「つながり」

去る7月13日に行われた平成23年度事業記者発表会では、今年度のテーマに加え、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて多様な事業展開が発表されました。なかでも東京文化発信プロジェクト初の開催となる国際会議『FUTURE SKETCH 東京会議』について東京文化発信プロジェクト室・山口企画担当ディレクターにお話をお伺いしました。

この状況の中で文化に何ができるのか？
『FUTURE SKETCH 東京会議』に集う人々

「東日本大震災後、今、東京、日本で何が起こり、人々が何を考えているか、この状況の中で文化に何ができるのか、様々な視点で話し合う場として、国際会議『FUTURE SKETCH 東京会議』を東京クリエイティブ・ウィーク期間中に開催することにしました。」と山口ディレクター。

会議には、パネリストとして日本側からジャーナリストの津田大介氏、音楽家でプロジェクトFUKUSHIMA!を手掛けている大友良英氏などが参加。海外からはオーストラリアの日本近現代史専門家、よりよきジャカルタのために市民と知識やノウハウを共有する活動をしているインドネシアの建築家・都市計画家、昨年9月のニュージーランド地震の直後からFacebookを通じて結成され、活動を始めたカンタベリー大学学生ボランティア組織の創設メンバーなど、幅広い顔ぶれが揃います。

「文化・芸術の持つ創造性とその力について改めて考え、それを手がかりに新しい社会のあり方や未来を模索する。その際、海外の方々も含め、各自の様々な体験やノウハウ、アイディアを交えてぜひ活発に議論していただきたいと思っています。」と山口ディレクターも期待を込めて語りました。

世界13カ国から若手アート関係者を招聘する
国際招聘プログラム

この議論には、東京クリエイティブ・ウィーク期間に合わせて実施する国際招聘プログラムにて世界各国から来日する若手のフェスティバル・ディレクターやキュレーター、ライターやジャーナリスト、約10数名も参加。来日後、東京の文化の今を直接体験すべく各種文化事業や都立文化施設を視察し、関係者との意見交換や交流を図ります。滞在期間の最後に『FUTURE SKETCH 東京会議』にも参加、フロアから議論に加わります。帰国後は自ら体験した東京の文化について、専門家のネットワークあるいは一般メディアにて発信します。

このように様々な視点や経験から展開する議論に対し、山口ディレクターも「新しい創造的社会形成のモデルの提案として東京会議の最後にまとめる予定です。希望を失わずに新しい社会や未来を創っていく上で、文化・芸術は大きな力となるはずです。」と力を込めて語りました。

■国際招聘プログラム・FUTURE SKETCH 東京会議

国際招聘プログラム
各種文化事業を体験してもらうとともに、アーティストや関係者と意見交換を行い、帰国後にはその体験や評価等を発信してもらいます。
日程：10月22日（土）～30日（日）
参加予定者：アジア・欧州・北米等のフェスティバル、美術館など、文化機関・文化施設のディレクターやキュレーター、批評家、ジャーナリストなど発信力のある若手関係者、約10数名
参加予定プログラム：フェスティバル/トーキョー11
東京アートミーティングほか
助成・協力：独立行政法人国際交流基金

FUTURE SKETCH 東京会議
東日本大震災後、文化・芸術が持つ創造性とその力についてあらためて考え、新しい社会のあり方や未来を模索し、新たな創造的社会形成のモデルを提案します。
（日英同時通訳つき）
テーマ 1 『新しい社会をデザインし、新たなつながりをつくるために』
日程：10月28日（金）
会場：国際交流基金JFICホール【さくら】
テーマ 2 『3.11以後の文化の力』
日程：10月29日（土）
会場：秋葉原コンベンションホール
助成・協力：独立行政法人国際交流基金

「東京クリエイティブ・ウィーク」プログラム　Lineup

これまでご紹介してきたプログラムに加え、10 月 20 日（木）～10 月 30 日（日）の 11 日間開催される「東京クリエイティブ・ウィーク」では、東京文化発信プロジェクトが展開するフェスティバル、キッズ・ユース、アートポイント計画の各事業分野で様々なプログラムが都内各地で集中的に実施しまされます。主なプログラムを以下、ご紹介させて頂きます。

■フェスティバル

東京発・伝統 WA 感動
東京大茶会 2011

開催会場(1)：江戸東京たてもの園
10 月 1 日(土)、2 日(日)
開催会場(2)：浜離宮恩賜庭園
10 月 22 日(土)、23 日(日)
内容：伝統ある茶文化や、お茶の文化を育んできた江戸・東京の文化を知ってもらうため、都内2ヶ所で大規模な茶会を開催します。普段、茶道に馴染みのない方や、海外から観光で訪れた方など、誰でも気軽に日本の伝統文化「茶の湯」を楽しんでいただくため、基本的なお茶の作法が分かるよう工夫を凝らした茶会です。

Music Weeks in TOKYO 2011
東京音楽アカデミー
オープニング・シンポジウム

日程：10 月 22 日(土)
場所：東京文化会館小ホール
内容：ヨーロッパを中心に活躍中の、日本を代表するアーティスト達が、ヨーロッパで歌うということ、オペラを創り上げるということなどを熱く語るシンポジウムを開催します。
パネリスト：栗國淳、浜田理恵ほか

フェスティバル/トーキョー11
主催作品上演

池袋界隈の文化拠点を中心に、最先端の舞台芸術を上演します。
－期間中の主催作品
・**『Referendum－ 国民投票プロジェクト』**
Port B　高山明
10 月 11 日(火)～11 月 11 日(金)
インターネット上および都内各所
・**『トータル・リビング　1986-2011』**
遊園地再生事業団　宮沢章夫
10 月 14 日(金)～24 日(月)　にしすがも創造舎
・**『カオス*イグザイル』 カオス*ラウンジ**
10 月 22 日(土)～11 月 6 日(日)秋葉原エリア(予定)
・**『静物画－still life』 白井剛**
10 月 27 日(木)～30 日(日)　自由学園明日館 講堂
・**『レッドと黒の膨張する半球体』**
岡崎藝術座　神里雄大
10 月 28 日(金)～11 月 6 日(日)　にしすがも創造舎

F/T 公募プログラム
10 月 19 日(水)～11 月 8 日(火)
シアターグリーンほか

■キッズ・ユース

ミュージック＆リズムス　TOKYO KIDS
コンサート開催

日程：10 月 23 日(日)
場所：東京都庁前　都民広場
内容："自然・音楽・子供・地域・地球"をテーマに、音探し、楽器作り、そしてリズムセッションのワークショップに参加してきた小・中学生の子供たちによるコンサート。子供たちの笑顔とリズムに、多彩なジャンルのミュージシャンたちのリズム、さらにその場に居合わせた人々のリズムが響き合い、東京の真ん中に"祭りの場"を紡ぎ出します。

■アートポイント計画

TERATOTERA 祭り

JR 中央線高円寺駅～吉祥寺駅区間をメインとした東京・杉並及び武蔵野地域を舞台に展開する、地域密着型アートプロジェクト「TERATOTERA」。
10 月 20 日～30 日をメイン会期として、東京・吉祥寺の街を舞台に開催する大規模展覧会「TERATOTERA 祭り」を開催します。″ ～以降の″、″ ～の次の″といった意味を持つ接頭辞、「post」をテーマに、「3.11 以降の世界」を生きる総勢 40 名以上のアーティストが創造する多様な表現を街に展開、地域への活力を与えると共に、被災地へ向けアートに秘められた力やメッセージを強く発信していきます。

日程：10 月 20 日（木）～30 日（日）一部プログラムのみ 11 月 4 日まで開催
会場：吉祥寺 PARCO、吉祥寺バウスシアター、武蔵野公会堂、他 JR 吉祥寺駅周辺地域
参加アーティスト：淺井裕介、遠藤一郎、岩井優、泉太郎、小泉明郎、田中功起、Chim↑Pom、contact GONZO ほか

TERATOTERA 祭り特別企画
TOKYO-FUKUSHIMA！
東日本大震災によって被災した福島県において、現地からありのままに見つめ、様々なメッセージを発信するために開始された「プロジェクト FUKUSHIMA ！」と連携し、東京から福島を発信するアートプロジェクト「TOKYO-FUKUSHIMA！」を実施します。

・オーケストラ TOKYO-FUKUSHIMA！
福島から 50 名以上を招き、東京の一般参加者と合わせて総勢 200 名以上の巨大オーケストラが、大友良英の指揮のもと、演奏を行います。
会場：井の頭恩賜公園
日時：10 月 23 日（日） 14：00～15：30 入場無料
出演：大友良英、七尾旅人、原田郁子ほかゲストミュージシャン 20 組程度

・シンポジウム TOKYO-FUKUSHIMA！
「プロジェクト FUKUSHIMA！」代表メンバー3 名が、初めて公の場で対談を行います。
会場：武蔵野公会堂
日時：10 月 28 日（金） 19：30～ 入場無料・要予約
パネリスト：大友良英、遠藤ミチロウ、和合亮一、小川希ほか

・TOKYO-FUKUSHIMA！LIVE！
大友良英をメインアクトに、一夜限りのライブを開催します。
会場：吉祥寺バウスシアター
日時：10 月 29 日（土）21：00～ 入場無料：前売 1500 円 当日 1800 円・要予約
出演：大友良英、遠藤ミチロウ、七尾旅人

・「プロジェクト FUKUSHIMA！」ドキュメント展示【福島大風呂敷】
8 月 15 日に「プロジェクト FUKUSHIMA！」の一環として福島で開催された「福島大風呂敷」のドキュメント写真・映像を展示します。
日程：10 月 20（木）～30 日（日） 入場無料
会場：武蔵野市立吉祥寺美術館ロビー

※その他のプログラムは、末尾のカレンダーをご覧ください。

TOPIC　東京文化発信プロジェクト Facebook ページがオープン

8 月 26 日（金）より東京文化発信プロジェクトの公式 Facebook ページがオープンいたしました。今後はプロジェクトにまつわる様々な情報を随時お知らせしていく予定です。

URL：http://www.facebook.com/tokyoculture

東京文化発信プロジェクトとは

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体やアートＮＰＯ等と協力して実施しているプロジェクトです。都内各地での文化創造拠点の形成や子供・青少年への創造体験の機会の提供により、多くの人々が新たな文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、国際フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信していきます。

〈この件の取材・掲載に関する報道関係の皆様からのお問合せ先〉
東京文化発信プロジェクト　広報事務局　担当：坂元・村木
〒107-0052　東京都港区赤坂 4-15-1　赤坂ガーデンシティ　18F
TEL：03-6675-9298　FAX：03-5572-6065　MAIL：tokyobunka@vectorinc.co.jp